

令和元年度第2回射水市民病院運営協議会 議事録（要旨）

日時： 令和元年9月5日（木）午後1時30分～午後3時

場所： 射水市民病院診療棟3階会議室

- 議事： (1) 平成30年度射水市民病院事業会計決算について … 資料1
(2) 外来患者満足度調査集計結果について … 資料2
(3) その他
・射水市民病院における患者の紹介・逆紹介の状況について … 資料3
・令和元年度の運営状況について … 資料4

質疑応答

「資料1 平成30年度射水市民病院事業会計決算について」

竹内委員 地域による偏りは変わらないが全体として増加している印象がある。

西島委員 損益計算書を見ると、前年度に比べ医業収益で5千万円、材料費で5千万円、併せて約1億の利益が増加しており経営努力が伺われる。

Q 雑損失計上されている金額の内容は何か。

当局 A 金額のほとんどが控除対象外消費税で、病院事業は収益のほとんどが非課税売上であるため、支出した消費税の多くが精算できず病院負担となるため、それらの費用を計上している。

新中委員 Q 人件費が増加した理由は何か。

当局 A 主に正規職員の医師が減少したことによりパート医師が増加していることにより人件費が増加した。効率的な収益を確保するためにも常勤医師の確保に努めていきたい。

「資料2 外来患者満足度調査集計結果について」

宮田委員 5段階方式で評価されておられるが、評価基準を先に表記する、活字を大きくするなど、もっとわかりやすい表記を心掛けてほしい。

竹内委員 医師や看護師の評価点数が上昇していることから大変頑張っておられることがわかり、患者にとっても大変心強いことである。全体となると評価点数が落ちるのが残念である。

宮田委員 Q 他院でも同様な調査は行っているのか。他院と比べたら評価はどうか。

当局 A おそらく他院でも実施されていると思うが詳細はわからない。また、病院によって状況が違うため一概に比較してもあまり効果はないと思われる。

高島委員 院内の評価項目が多い。評価項目ではないが通院手段が変われば評価も変わることから、それを直結する様な評価項目を設ければどうか。

宮田委員 Q 関連して院外の詳細な調査は考えているか。例えばコミュニティバスは市民病院を起点に稼働しており、担当課と連携して調査を行えばどうか。

当局 A コミュニティバスは、当院にとって大変重要な交通手段だと認識している。担当課ではアンケート調査等を実施していることは承知しているが内容は把握していない。

宮田委員 事務レベルでもよいので協議して連携してほしい。また、デマンドタクシーを有効活

用すれば患者増にも繋がるので活用してほしい。

西島委員 Q 調査結果を職員にフィードバックしているか。

当局 A 毎月実施している各所属の代表で行う病院責任者会議で周知しており、その後に所属長等が各所属職員に周知している。

宮田委員 集計結果について、細かい数値を並べるのではなく評価毎にその割合を示す、例えば評価5は何%など、誰が見てもわかりやすい表記を工夫してほしい。

宮田委員 全体的に、過去の実施状況を見ると実施月がバラバラであることから、推移や統一的な分析を行うためにも同月の実施が好ましいのではないか。また、環境面において待ち時間に関する評価点が低いことから改善の余地があるように見受けられる。

「資料3 射水市民病院における患者の紹介・逆紹介の状況について」

長崎委員 紹介・逆紹介は開業医にとっても大変重要である。大きな病院では実績を上げるために苦労していると聞いている。

宮田委員 Q 紹介に対して何か基準は設けられているのか。

A 特にないが、200床以上の病院の中で「地域医療支援病院」となっている病院にとっては、制度上、一定程度の紹介や逆紹介率が必要である。当院は199床のため該当しないが実績は年々増加している。

宮田委員 Q 病床数を200床ではなく、なぜ199床としたのか。

当局 A 元は200床だったが、診療報酬改定における新たな加算取得による収益確保のため199床とした経緯がある。

宮田委員 Q 200床と199床では一般会計繰入金に影響はあるのか。

当局 A 繰出基準においても病床数が基準となっている項目はないことから、繰入金に影響はない。

高島委員 Q 地域包括ケア病棟について、地域包括ケアシステムと繋がりはあるのか。

当局 A 地域包括ケア病棟は、急性期病棟へ入院した患者に対して、在宅復帰に向けた支援を行う役割の病棟であり、地域包括ケアシステムの一端を担っている。

竹内委員 同じ回復期病棟のなかでも地域包括ケア病棟は、リハビリを主に行う回復期リハビリ病棟と違い、在宅復帰を見据えた対応を行うことから、在宅復帰後急変した場合などでも対応してもらえる病棟である。

宮田委員 名前は知っていても内容は知らないことが多い。行政機関同士で密に連携して住民を導いてほしい。

「資料4 令和元年度の運営状況について」

新中委員 Q 各病棟単位で見るとそれぞれ入院患者は入っているのか。

当局 A 上半期は閑散期のため稼働率70%に届いていないが、下半期は稼働率75%を目標として患者確保に努める。他院では稼働率80%、多いところでは90%の病院もある。当院は決して稼働率は高くないが患者への配慮や質の高いサービスを提供している。患者が増えれば同様の配慮は難しくなるが、できる限りの対応を心掛けていく。

西島委員 Q 地域包括ケア病棟は他にもあるのか。

当局 A 高岡医療圏では済生会高岡病院や、JCHO高岡病院など複数の病院にあるが、2病棟を稼働しているのは当院のみである。

宮田委員 そのような特色をもっと広く広報すればどうか。公立病院は民間病院と比べると迅速な対応が難しいことは承知しているが、市民はわからない。今後の方向性を院内でしっかり議論し、市民に対して広くPRするとともに、広報活動にも力を入れて、市民が見てわかりやすいよう工夫してほしい。